

本教会へ初めて来られた方々を
心から歓迎いたします。

「毎月最初の主日には聖餐式を行います。」

今月の聖餐式は 16 日の収穫感謝主日に行われます。

教会の働き

- 今日、主日夕方賛美礼拝の後教会運営会議があります。関係者は今週中資料を提出して下さい。
- 11月 6-7 日 聖契神学校のスクーリングに参加します。又、7 日には東京福音教会で行う復興に本セミナーにも参加します。
- 11月 23 日(日)本場キムチバザー＆コンサートが行われます。主日礼拝は チャン・トンオク牧師が御言葉を取り次いでくださいます。礼拝後 午後 2 時から バザーとコンサートを行います。チラシとポスターが印刷されます。どうぞ、隣人やご家庭での広報・伝道のためにご活用ください。地域の方々に主の愛と喜びが伝わるように、一枚一枚のチラシが福音の種として用いられることを祈ります。

聖徒の為に祈りましょう。

- ・コロナとインフルエンザから守られますように。
- ・施設に入られている方々の生活が守られる為に。
- ・YouTube ライブで、礼拝している教会と聖徒の皆さんのがんに。(大阪ホームチャーチ、相模原の佐々木こずえ執事の家庭など)



「人生の矛盾を越えて、 まことの幸いへ」

詩編 73 篇(1-28 節)

1 まことに神はいつくしみ深い。
イスラエルに心の清らかな人たちに。2 けれどもこの私は
足がつまずきそうで私の歩みは滑りかけた。3 それは私
が悪しき者が栄えるのを見て誇り高ぶる者をねたんだか
らだ。…17 ついに私は神の聖所に入って彼らの最期を
悟った。…25 あなたのほかに天では私にだれがいるで
しょう。地では私はだれをも望みません。…28 しかし私
にとって神のみそばにいることが幸せです。私は【神】で
ある主を私の避け所としあなたのすべてのみわざを語り
告げます。

来週礼拝奉仕者

主日礼拝 柳澄香(賛美リーダ) 北原明子(祈祷)

夕方賛美礼拝 柳澄香(賛美リーダ) 平澤寿子(祈祷)

水曜礼拝 北原孝子(司会) 柳澄香(祈祷)

礼拝時間案内

主日礼拝	AM 11:00
夕方賛美礼拝	PM 2:30
教会学校 (小学生まで)	AM 9:50～10:30
水曜礼拝	PM 7:00
祈祷会・火・木曜日	PM 8:30～9:30
土曜日	PM 8:00～9:00

神の国とその義を
第一に求める

宗教法人 イエス・キリスト

飯田福音教会



395-0807 飯田市鼎切石 3883-4

TEL 0265-56-8286

www.iidahc.com

牧 師 柳 承吉(ヤナギ ショウキチ)

副牧師 柳 智愛(ヤナギ チエ)

主日礼拝

	AM 11:00~
信仰告白	賛美リード (使徒信条)
代表祈禱	高木はつえ
特別賛美	インマヌエル聖歌隊 エンゼルチーム
聖書個所	詩編 73 篇 (1-28 節) (人生の矛盾を越えて、まことの幸いへ)
メッセージ	柳承吉牧師
賛 美	神の家族
祝 祈	柳承吉牧師
夕方賛美礼拝	PM 2:30~
	賛美リード 韓芽唯
代表祈禱	松島スヤンティ
聖書個所	ローマ書 6:6-7 (罪の奴隸ではない。2)
メッセージ	柳 承吉牧師
主の祈り	
水曜礼拝	PM 7:00~
司 会	高木はつえ
代表祈禱	北原孝子
聖書個所	ローマ書 8:1-4
メッセージ	ローマ書 8 章の概略(1) 柳承吉牧師
主の祈り	

今週の御言葉

人生の矛盾を越えて、まことの幸いへ

詩編 73 篇(1-28 節)

「矛盾」とは、物事の前後が一致しないこと、相反する二つが同居することです。私たちの世界と日常は、矛盾でいっぱいです。ある作家は「人は生まれた瞬間から死に向かう」と言いました。生と死が同居するのが人生。

私たちの心にも矛盾が潜みます。「誰かと近づきたい、でも離れたい。共にいたい、でも一人でいたい。働きたい、でも自由でいたい。完璧でありたい、でも怠けたい……」。しかし矛盾は必ずしも悪ではありません。

筋力トレーニングは「作用」と「反作用」のせめぎ合いが、むしろ成長という“逆説的”結果を生みます。人生も同じ。相反するものの衝突と交錯の中で、私たちは成長し成熟していきます。

詩編 73 篇の作者アサフは、まさにこの「人生の矛盾」に直面しました。彼はダビデ・ソロモン期に仕えた著名な賛美の歌い手、歌と預言的務めを担った靈的リーダーでした。そのアサフが、信仰を根底から揺さぶる矛盾を経験し、正直に告白します。

1) 矛盾—悪しき者の繁栄と義なる者の苦難(1-14 節)

アサフは真理を知っていました。「まことに、神はイスラエルに、心のきよい者たちに、いつくしみ深い。」(1)しかし現実はしばしば逆に見える、ここに矛盾があります。彼は告白します。「けれども、この私は、足がつまづきそうで、私の歩みは滑りかけた。それは、私が悪しき者の榮えるのを見て、誇り高ぶる者をねたんだからだ。」(2-3)悪しき者は平安で、病にも悩まされず、富は増し、言葉は

傲慢(7-9)。「どうして神が知るだろうか。」(11)と、神をも侮る。にもかかわらず「彼らはいつまでも安らかで、富を増している。」(12)一方で、神を恐れ、良心に敏感に生きる者は打たれ、しばしば損をする。アサフは「神の公義はどこにあるのか」「事必帰正は本当か」と心動かされ、信仰の足が滑りかけたのです。

2) 矛盾を越える道—聖所へ、神の前へ(15-20 節)

アサフは軽率に語り、世代をつまずかせることを避け(15)、自力で理解しようと苦闘しました(16)。しかし解は見つからない。「ついに私は神の聖所に入り、彼らの終わりを悟った。」(17) 鍵は「場所の転換」です。

現実の只中から、神の臨在の只中へ。そこで彼は、悪しき者の繁栄が“足もとが滑る場所”(18)、突如として滅びる“夢まぼろし”(19-20)にすぎないことを悟ります。

試みに勝つ道は、世を見つめる視線を、神を見る視線へと戻すこと。聖所(礼拝・祈り・御言葉)に身を置くとき、永遠の光に照らされ、現実の“真の輪郭”が見えてきます。

3) 矛盾を越えて「真の幸い」へ(21-28 節)

視点が神に戻ると、心の鈍さと苦味を悔い(21-22)、神の御手と導きを再発見します。…「しかし私にとって、神のみそばにいることが幸せです。…」(28)

世がうらやましく見えるとき—聖所へ。

不安・孤独・将来の不確かさに襲われるとき—主のもとへ。

目を世から主へ。時間を雑音から御言葉へ。場所を喧騒から礼拝へ。

もう一步、神に近づきましょう。主が備えておられる「真の幸い」に生きるために。